

あま市立伊福小学校	
分科会名	道 徳 教 育

## 研究題目

「互いのよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成」  
 —道徳を教育活動の核に据え、自分事として本音で語り合える授業づくりを通して—

## 研究要項

### 1 ねらい

研究題目の「互いのよさを認め合う」とは、考えの違いはあっても、互いの存在を認め合い、相手の考えを尊重する態度である。考えの違いを認め合い、自分の本音が受け入れられる経験を通して、自己肯定感も高まっていくと考える。そして、自分を見つめ、善悪を多面的に考察しながら自分の生き方を問い続けることが、ぶれない自分を築きあげ「よりよく生きる」ことに近づけると考える。

本校では、一昨年度より道徳教育の研究を進めてきた。他者との関わりを軸とした教材の発掘や、読み聞かせとセンテンスカードでの資料の提示などを研究し、授業実践を積み重ねてきた。その中で活発に意見交流ができるようになり、発言する意欲や聴く力が育つなどの成果を得た。授業において、互いを認め合う環境は整った。一方、課題として、道徳の授業で高められたはずの道徳性が日常の児童の生活に生かされていない、つまり「分かってはいるけれどもやめられない」状況が続いている。

道徳の授業と普段の生活についてのアンケートを実施したところ、「道徳の授業が好きか」「道徳の授業の話し合いは楽しいか」の質問に対して、どちらも「とてもそう思う」と答えた児童がほとんどであった。しかし、それに比べ、「道徳の授業で学んだことが、生活の中で生かされているか」の質問には「あまり思わない」「まったく思わない」と答えた児童が約半数を占めた。このことから、道徳の授業では、自分の意見を伝えたり友達の発表を聞き、自分の考えを深めたりすることに楽しさを感じているものの、道徳の授業で学んだことが自分の日常生活に生かされていない児童が多いことが分かった。

そこで、本年度は、道徳を教育活動の核に据え、他教科、領域と道徳との連携を図っていくこととした。今までの学年行事や学校行事と道徳がうまく連携し合うように道徳の年間指導計画を見直した。さらに、そこに保護者や地域との連携も盛り込むこととした。核となる道徳の授業については、問題解決的な学習の手法を取り入れ「自分だったらどうするか」というテーマ発問で授業を組み立てることで、自分事として捉え、本音で語り合える授業づくりをめざした。また、教材の選定や作成、話し合いを活発化させる切り返し発問の吟味、自分の心の変容に気付くワークシートや心情メーターの活用を図っていきたい。

## 2 研究の方法

### (1) 研究の仮説

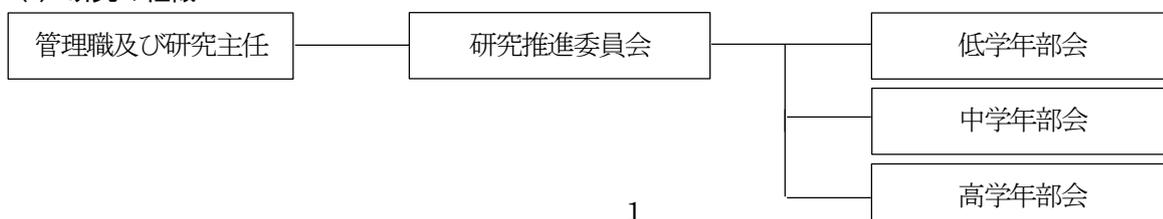
**仮説Ⅰ** 道徳を教育活動の核に据え、他教科との連携及び保護者や地域との連携を図っていくならば、道徳の授業で学んだことが自分の日常生活に生かされていくことになるであろう。

**仮説Ⅱ** 道徳の授業に問題解決的な学習の手法を取り入れ、本音で語り合える授業づくりをめざすならば、問題を自分事として捉え、より確かな考え方の形成につなげることができるであろう。

### (2) 研究の対象

全学年（6年生中心）

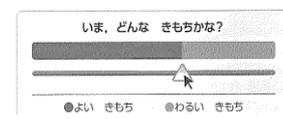
### (3) 研究の組織



#### (4) 研究の手立て

- ① 仮説Ⅰに対しての手立て
  - ア 道徳の年間指導計画を見直し、学校行事等と連携を図る。
  - イ PTA行事との連携を図り、保護者への協力を呼びかける。
- ② 仮説Ⅱに対しての手立て
  - ア 問題解決的な学習に関する外部講師の招聘を行い、共通理解を図る。
  - イ 本音で語り合える授業づくりの工夫をする。
    - ・葛藤場面のある教材選定
    - ・多面的な思考を促す切り返し発問の工夫
    - ・思考の見える化を図るためのワークシートや心情メーターの活用

※心情メーターとは  
自分の気持ちや考えが今どのくらい(賛成の気持ちが〇%くらいあるなど)なのかを示したもの。



日文道徳資料【道徳】「どうとくのひろば」から引用

### 3 研究計画

#### (1) 携帯電話に関する計画【表①】

…仮説Ⅰに対しての手立てア、イ

月	道徳	教科・領域・その他
5	道徳アンケート	総合「ケータイ安全教室」 岐阜大学大学院の柳沼先生招いての問題解決的学習の講義
6		PTA子育て講演会 「ケータイ依存脱出法」
7	「メールの返信」	学活「スマートフォン等を使用する際のルールづくり」
10	「絵地図の思い出」	学活（キャリア教育） 「小学生に携帯電話は必要か」
1	道徳アンケート	

#### (2) 他の内容項目における計画【表②】(例「愛校心」)

…仮説Ⅰに対しての手立てア

月	道徳	教科・領域・その他
10	「だれが拾うの？」	児童会活動 「児童会役員選挙」
12	「よりよい校風を求めて」	児童会活動 「全校なかよし大会」
1		総合「合唱発表会」
3	「学校のほこり」	児童会活動 「6年生を送る会」 学校行事「卒業式」

### 4 抽出児童について

児童Aは、明るく素直な性格の男子児童である。道徳の授業においても自分の意見を進んで発表することができる。

しかし、乱暴な言葉遣いや自分勝手な行動をとることがあり、友達とトラブルになることもある。また、「道徳の授業で学んだことが、生活の中で生かされている」には「あまり思わない」と答えている。

この実践を通して、道徳の授業で学んだことを普段の生活でも生かせるように道徳性を育てていきたい。

児童Bは、真面目で非常に落ち着いた性格の女子児童である。しかし、自分の思いを表現したり、授業で発言したりする姿はあまり見られない。

また、道徳アンケートでは、「自分のことはあまり好きではない」と答えている。

この実践を通して、本音で語り合える授業づくりをすることで、自分の思いを表現できる機会を多くつくり、積極性を養っていきたい。

### 5 研究実践

#### (1) 総合「ケータイ安全教室」…仮説Ⅰに対する手立てア

5月に行われたケータイ安全教室では、NTTドコモの方を招いてスマートフォンやインターネットを使用する際の注意すべきことについて学んだ【写真①】。まず、トラブル事例については、「ネットいじめ・誹謗中傷」や「長時間利用」など児童が巻き込まれやすいトラブルについて動画を見ながら勉強した。児童は、些細なことから大きなトラブルに巻き込まれることや怖い思いをすることを知り、使い方に気を付けていこうという様子が見られた。

また、児童に「家庭でスマートフォンやインターネットを使う際のルールが決まっているか」という質問をした。すると、ルールを決めている家庭は半数にも満たなかった。家に帰ったら保護者と話し合い、ルールを決めるようにと呼びかけた。使用する際の注意事項については、トラブル事例からどうすれば未然に防げたのかという視点からグループで話し合った。インターネットは世界中の人と繋がっていることや一度インターネット上に載せた写真や動画は完全に消すことはできないということから、不用意にインターネットを使用したり、軽い気持ちで写真や動画を載せたりしてはいけないことに気づくことができた。



【写真① ケータイ安全教室の様子】

僕はまだ自分のスマートフォンを持っていません。

スマートフォンは便利だけど、使い方に気を付けたいです。

【資料① 児童Aのケータイ安全教室を終えた感想】

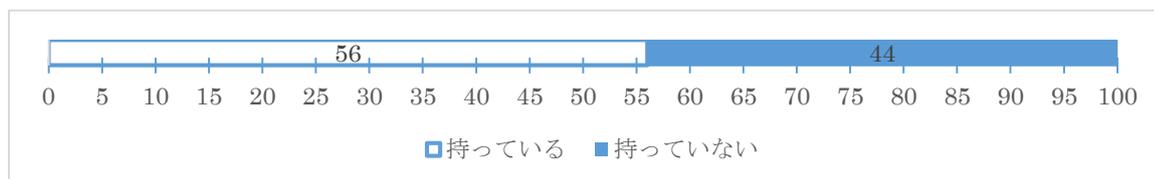
スマートフォンを寝る前に使っていて、寝るのが遅くなることがあります。

使う時間をお家の人としっかり話し合いたいです。

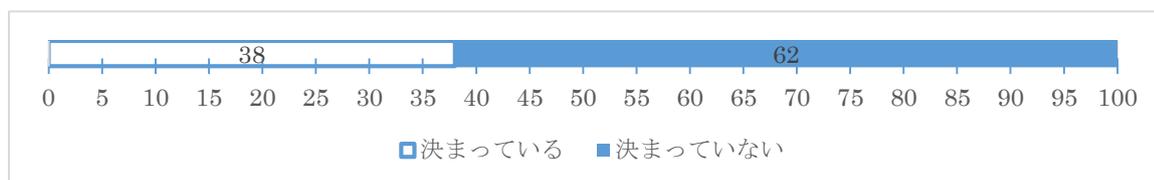
【資料② 児童Bのケータイ安全教室を終えた感想】

## (2) 「ケータイ安全教室」を終えてのアンケート結果の分析…仮説Ⅰに対する手立てア

① 自分のスマートフォンや携帯電話を持っていますか。(68人中)



② スマートフォンやインターネットを使う際のルールが家庭で決まっていますか。(68人中)



アンケート結果を分析すると、自分のスマートフォンを持っている児童は約半数いる。保護者が共働きで、習い事をしている児童が多く、その際保護者に迎えに来てもらう時に連絡するためや遊びに行った際にすぐ連絡がとれるようにという理由が多かった。これから中学生、高校生と年齢が上がるにつれて「持っている」の割合がどんどん高くなっていくことが考えられる。また、自分のスマートフォンや携帯電話は持っていないけれども、保護者のスマートフォンでゲームをする児童や家族共用のタブレットがあり、それを使ってゲームやインターネットを行っているという児童も多くいた。

その一方で、使用の際ルールを決めている家庭は4割にも満たず、保護者の知らないところでスマートフォンや携帯電話を使っているという現状があった。児童の中には、夜遅くまでスマートフォンを使用し、寝るのが遅くなってしまったことがある児童や知らずにボタンを押してしまい、課金をして保護者に迷惑をかけてしまった児童などがいた。

このことから、スマートフォンや携帯電話、インターネットの使い方を保護者の協力しながら、考え直していく必要があると考えた。

## (3) 外部講師を招いての学習会…仮説Ⅱに対する手立てア

岐阜大学大学院教育学研究科准教授の柳沼良太先生を招いて、道徳授業の学習会を行った。

柳沼先生からは、多面的・多角的に思考させるようなヒントを教師が児童に与えることが大切であると教えていただいた。そのために、ネームプレートの



【写真② 学習会の様子】

活用やわかりやすい板書の工夫が必要である。また、道徳の授業で児童が話し合いをする中で、みんなで納得できる考えや見方を見つけ、深めていく授業づくりをすることで問題解決的な学習が図られるとの指摘もいただいた。これからの授業づくりにおいて、視覚的に分かりやすい板書や児童の多面的・多角的な思考を促す切り返しの発問を大切にしていかなければならないと共通理解を得ることができた。

#### (4) P T A子育て講演会「ケイタイ依存脱出法」…仮説Ⅰに対する手立てイ

藤田保健衛生大学客員教授の磯村毅先生を招いて「ケイタイ依存脱出法」と題した講演を行った。携帯でのゲームやSNSの害について、依存による脳の機能低下や発達への悪影響を科学的に話していただいた。イタイイタイ病や水俣病に匹敵するレベルの公害であるという認識があり、今後の予防の必要性を強く主張された。



【写真③ P T A子育て講演会の様子】

今回、保護者に向けて、携帯電話やスマートフォンが児童に及ぼす影響の話をしていただき、保護者も危機感を感じられた。家庭で児童と話し合ってもらい、学校と保護者が連携しながら携帯電話やスマートフォンの使い方や使う時間などについて、児童への指導や声かけをしていくよいきっかけとなった。

#### (5) 自分事として考える道徳実践「メールの返信」…仮説Ⅱに対する手立てイ

##### ① 教材選定について【メールの返信（B—10 友情・信頼）】

本教材は、主人公のユミと親友のナナとのメールによるすれ違いから起きるトラブルの話である。

ナナとユミはとても仲が良い。親との連絡手段として持たせてもらった携帯電話だったが、いつしか毎日のようにメールのやりとりをするようになった。携帯電話のせいで宿題をすることに集中できなかつたり、寝るのが遅くなったりすることもあった。そこで、ユミは母と9時以降はメール交換をしないようにルールを決めた。

ある日の朝、ユミがナナにあいさつをすると無視されてしまった。クラスメイトのユカリの話によると、昨日ナナが相談したいことがあってユミにメールをしたが、ユミが返信しなかったことに腹を立てているらしい。家に帰ってナナからのメールを確認した。9時以降のメールだったのでユミはメールに気づかなかった。ユミはナナに「昨日はごめんね。でも、9時以降はメールできないって伝えたよね。わかってよ。」と返信する。すると、ナナからの「昨日はどうしても相談に乗ってもらいたくてメールしたの、わたしたち親友だよ。ユミちゃんなんか冷たくない？」というメールを見て、じっと考え込んでしまった。

携帯電話について取り扱っていることと、児童が自分事として考えられる教材であることから本教材を選定した。

##### ② 問題解決場面の設定と授業の実際

主発問を「もしあなたがユミなら、次の日学校でナナに対して何と言いますか。」と設定した。「自分がユミだったら」と児童に意識させることで自分事として考えられるよう工夫した。また、主発問に対する回答を具体的なせりふを考えさせることで児童は自分の言葉でワークシートに記入し、発表することができた【写真④】。



【写真④ ワークシートに記入する児童】

主発問に対する児童の意見としては、「自分勝手だよ」「メールをするだけの仲が親友なんておかしい」などのナナを突き放す意見と、「冷たく感じさせたならごめんね」「相談にのれなくてごめんね」などのナナに対して謝罪をし、ナナを受け入れるといった両極端な意見が出された。また、その2つの間を取ったような「お互いメールの返信ができない時があるからルールを決めよう」「ごめんね。でも返信が来ないだけで無視しないで」などの意見も出された。「突き放す」意見を黒板の左側に、「受け入れる」意見を黒板の右側に、中間の意見は真ん中にまとめ、「突き放す」と「受け入れる」の意見を両端とした心情メーターを書き入れた。心のメーターを使って、自分がどちらの考えか児童に挙手させ確認したところ、ナナを突き放すような考えの児童が少し多かった【写真⑤】。心情メーターを使うことで話し合う前に自分達がどの立場で話し合いに参加しているのかを明確にした上で話し合いができた。

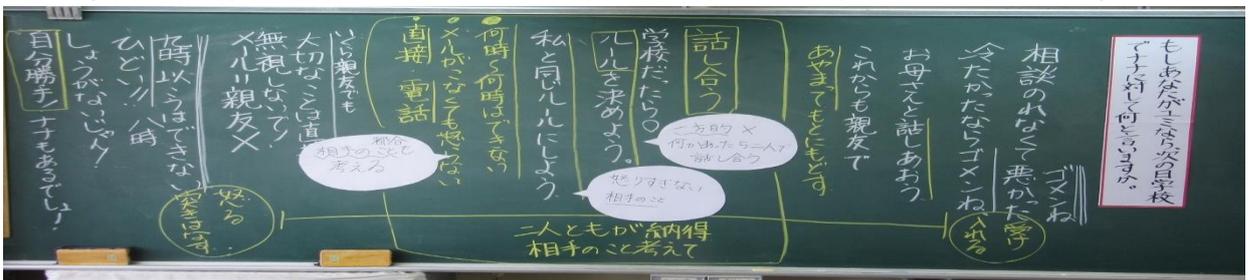


【写真⑤ 心のメーターを使って自分の考えに挙手をする児童】

次に、2つの両極端の意見に対してそれぞれ繰り返し発問を行っていった。「突き放す」意見に対して、「親友のナナにそんな言い方していいのかな」と教師が繰り返し発問をしたところ、「話し合いたい」や「2人でルールを決める」といった、関係を切らずに互いが満足するような方法が出てきた。また、「受け入れる」意見に対しては、「自分だけが悪いのかな」や「ナナもひどくない？」という繰り返し発問をしたところ、「ナナにしてほしいことをちゃんと言う」という自分も謝った上でナナのわがままを正すという意見が出た。このように、繰り返し発問により、多面的に思考するきっかけづくりができ、話し合いを通して、自分の思いを伝えた上で話し合ったり、ルールを決めたりするという考えにまとまった。

話し合いの後にもう一度心情メーターを使って確認したところ、中間で挙手する児童がほとんどとなり、心の変容が視覚的にも分かった。話し合いで自分の考えを発表することや友達の意見を聞くことを通して、クラス全体がよりよい解決策に向かうことができたのではないかと考える【写真⑥】。

最後に、授業おわりにもう一度授業はじめと同じ「友達付き合いで何に気を付けていますか」という発問に対して、ワークシートに記入して発表した。児童の発表した意見を教師がその場で紙に書き、黒板に貼った。児童の言葉で授業のまとめとして掲示し、本時で学んだことを見てわかるようにした。



【写真⑥】 授業おわりの板書

③ ワークシートに書かれた「授業はじめのあなた」と「授業おわりのあなた」

問：「友達付き合いで気を付けていることは何ですか。」

ア「授業はじめのあなた」

イ「授業おわりのあなた」

- ①遊びで悪口を言わない。…抽出児A
- ②できるだけ悪いことは「ダメ！」と言う。  
…抽出児B
- ③けんかにならないように優しい言い方で言う。
- ④遊ぶ時や授業の時に言葉遣いに気をつける。
- ⑤相手が怒っていたらなるべく早く謝る。



- ①あまり怒るのではなく、相手の気持ちを受け止める。…抽出児A
- ②一方的じゃなくて、相手のことや都合を考えて、何か起きたときには話し合う。…抽出児B
- ③大事なことは直接会って話すか、友達の話もちょうんと聞く。
- ④言葉遣いに気を付けて、両方が納得できるルールを決める。
- ⑤自分の都合に相手を合わせさせて困らせない。

ほとんどの児童が授業はじめと終わりで考え方が変わったことが分かる。「授業はじめのあなた」ではほとんどの児童が、自分の考えや思いから自分がどのような言動をするかということを発表していた。しかし「授業おわりのあなた」には、相手の気持ちを尊重しながら、2人が納得、満足できる最善の方法を考えようとする姿勢が多くの子にみられるようになった。

これらの発言から、本授業のねらいである、「ナナの言動に対してのユミの発言を考えることを通して、よりよい友情関係を育てていこうとする気持ちを高める」に迫ることができたのではないかと考える。

(6) 学活「スマートフォン等を使用する際のルールづくり」…仮説Ⅰに対する手立てア・イ

携帯安全教室や道徳の授業を通して、スマートフォンなどの使用やスマートフォンなどの使用と友達との関係づくりについて話し合ってきた。児童の中には、家庭でお家の人とルールづくりに取り組んだ児童や、友達とスマートフォンの使い方について一緒に考えたという児童がいた。そこで、6年生の2クラスで、「スマートフォンを使用する際のルールづくり」という学級会を



【写真⑦】 学級会で話し合いをする児童

開くことにした【写真⑦】。すでに家庭での話し合いが行われている児童からは、実際に家庭で話し合っただけで決めた約束事がそれぞれ出された。また、まだ家庭では決めていないけれど、こんなルールがあった方が良いという考えも多く出された。各学級でそれぞれまとめたものを学年ですり合わせ、6つのルールとした。そしてそのルールを伊福小学校の基本とし、全校に文書として配布した【資料③】。このように、学校と家庭が連携し、自分事としてスマートフォンなどの使用方法について考えていくことで、児童の意識を高めた。

- <スマホを使う際に参考にしてくださいルール>
- 1 メール等では友達への悪口は絶対に書かない。
  - 2 使用時間を話し合っただけでルールを守って使う。  
(例) 午後9時以降は使わない。親に預かってもらうようにする。  
2時間を超えて使わない。
  - 3 怪しいサイトを開いたり、知らない人とのメール等のやりとりをしない。
  - 4 ゲーム時間を保護者と話し合い、決めた時間内で行う。
  - 5 課金はしない。する場合は必ず保護者の許可を得る。
  - 6 動画や写真の投稿はしない。

【資料③ 学校から配布した文書】

ぼくは、今自分のスマホをもっていないけど、買った時には今日みんなで決めたルールを守りたいです。あと、相手が嫌な気持ちにならないように気をつける。

【資料④ 学級会を終えた児童Aの感想】

私は、来年になったらスマホを買ってもらうので、道徳でやったことや今日の話し合いのことを思い出して安全に使いたいです。

【資料⑤ 学級会を終えた児童Bの感想】

学校から配られた文書を参考に、子どもとスマホの使い方について家族で話し合いました。1学期にはLINEや動画投稿で友達とトラブルになったが、今は落ち着いています。

【資料⑥ 夏休みに保護者に行ったアンケート】

## 6 成果と課題

### (1) 成果

#### ①仮説Ⅰへの取り組みについて

児童Aは、まだ乱暴な言葉遣いをするものはあるものの、本実践を通して、少しずつ相手の気持ちを考えようとする気持ちが高まりつつある。道徳の授業においても、「相手の気持ちを受け止めた方が互いに気持ちよく過ごせる」と発言しており、道徳の授業と自分の生活を重ね合わせ、これからの生活に生かしていこうとする様子が見られた。道徳教育と総合や学活等を連携させた携帯電話に関する年間指導計画を作成した。児童が自分事として携帯電話の使い方やマナーを考えるようになってきた。また、保護者との連携も図ったことで、児童の日常生活に生かされるようになってきた。実際に保護者から「子どもとスマートフォンの使い方について話し合うと、友達や友達の家庭の事情について考えているようだった」という意見をいただいた。道徳の授業だけでなく、他教科・領域との連携や保護者との連携によって、道徳教育を要とした教育活動を実現することで、道徳で学んだことが児童の生活に生かされた。

#### ②仮説Ⅱへの取り組みについて

児童Bは、「メールの返信」の授業において「一方的じゃなく、相手のことや相手の都合を考えて何か起きた時は話し合いたい」と発表した。テーマ発問に対して、児童同士の活発な話し合いの中で自分の考えに友達の意見を取り入れていく中で、よりよい考えを生み出し、自分の言葉で思いを表現することができた。また、児童が自分事として考えられるような教材の選定や心情メーターの活用、教師の切り返し発問などによって児童の活発な話し合いが促され、よりよいものを作り出すことができた。特に教師の切り返し発問は、児童のこれまでの思いを覆すような発問をすることで、自分の考えを改めて確認したり、見直したりする機会となった。友達の考えを詳しく聞くことを通して児童同士の話し合いが深まり、考えの変容を生み出すことができた。

### (2) 課題

- ・ 保護者と連携することによる効果を実感できた。今後は外部講師の活用をさらに進め、その中で地域との連携も模索していきたい。また、来年度から教科書を使って授業を進めていくことになる。年間指導計画の練り直しが必要となる。大幅な改訂を行っていきたい。
- ・ 授業において、今回心情メーターは有効であった。しかし、繰り返し使用することで授業終わりの児童の考えが真ん中に集まりがちになると考えられる。そのため、そうならない様々なパターンの授業を行ったり、心情メーターだけでなく、視覚的に分かる他のツールを活用したりしていきたい。